

保育士試験 「保育原理」 過去問分析 出題予想（傾向と対策）

はじめに 試験問題の解答には文章や文脈による“流れ”をつかむことが大切です。以下の文章に何度も同様の表現が出てきますがご理解ください。ケアレスミスは「分かった！！」と思った瞬間に問題を全部読むことを中止したり、読み返すことをしなかったりするために発生するケースが多いのです。とくに事例は日常の経験から解答できる問題がほとんどといっても過言ではありません。試験は受験して合格するだけでなく保育についての必要な知識が自然と理解できるので、勉強していても充実した気持ちになります。当然合格した時の達成感と言うまでもありません。

1. 解答形式 過去 100 問中

- ×形式 45 ()形式 26 組合せ形式 20 不適切(正)形式 8 年代並替形式 1
- ×は絞り込み ()は文章をよく読み文脈で 不適切問題はよく読んで確実に

2. 6割12問(10問出題は6問) 得点のための出題出所内訳

- A 保育所保育指針 平均 11 問
- B 事例 平均 3 問
- C 人物(国内外) 平均 3 問

※この科目では保育所保育指針は避けて通れないし、逆にこの指針の特徴をつかめば確実に合格へすすめることになる。

3. 保育所保育指針(2018年から新指針)

第1章「総則」 21/100

第2章「保育の内容」 15/100

新指針になってからはほぼ第1章と第2章からの出題が多い。

とくに第2章「保育の内容」は平成31年4月に5/20問、平成30年10月に5/20問の出題なので、指針の文章の流れをつかんでおこう。完全合格テキストでは過去の出題箇所が赤字で表示されていてわかりやすい。ハンドブックでは関連する事柄が右側に記載されていて見やすい。どちらも目次で流れを把握してから本文を読むようにしてください。指針の流れは「原則・計画」→「ねらい」→「内容」の順になります。これを理解した後1. 総則 2. 内容 3. 健康安全 4. 支援 5. 職員を囚入りで順にイメージすると覚えやすいと思います。

4. 人物問題に関して

勉強するうえで覚えようとしてもなかなか克服できないのが人物。国内国外に限らずいざ出題されると自信がなくなるのです。で、体験談としては必要最小限覚えて、あとは絞り

込む方法。例えば国内人物は倉橋惣三、野口幽香、松野クララ、海外人物はルソー、ピアジェ、デューイ、エリクソン、コメニウスをテキストの人物リストで自分なりの語呂合わせで覚えた範囲で選択肢を絞り込んでみた。問題ではほとんど知られていない人物を取り上げることは少ない。出題されても、本来知ってほしい人物を惑わせるためなので、出題の意図をくみ取るような読み方もありではないでしょうか。

ご注意：この出題予想で試験が合格できるわけではありません。受験する人のモチベーションアップに貢献することで、受験勉強をより楽しく、効率的にしたいという思いで作成しています。

参考テキスト

「保育士 完全合格テキスト 上・下」翔泳社

「保育所保育指針ハンドブック 2017年告知版」学研教育みらい

参考サイト

厚生労働省 保育所保育指針

参照法令

憲法 社会福祉法 児童福祉法 子ども子育て支援法 児童の権利に関する条約

注意キーワード

子どもの最善の利益（児童の権利に関する条約・保育所保育指針）